

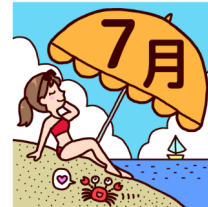
市民活動状況  
(5月末日現在)

市内NPO法人数	31 団体
当センター登録団体数	157 団体
当センター登録会員数	6,632人
来館者数	1,250人
印刷機利用枚数	28,752枚

## ひびき

発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之



龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。  
会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や  
大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。  
開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。  
休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日  
〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571  
E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL <https://ryugasaki-shiminkatsudo.net>



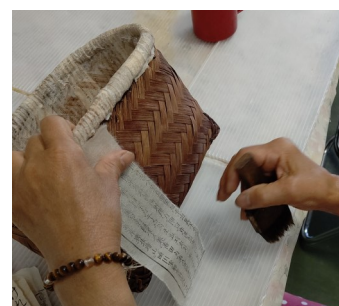
## 市民団体活動紹介シリーズ No.22「サザンカ」

目指せ！市民活動日本一

一貫張り(一閑張りとも書く)とは竹かごや木箱等をベースに、和紙を張り重ねて作る工芸品です。最後に柿渋や漆で防水加工したり、色付き和紙や友禅などの布地を貼って華やかに仕上げたりと手が込んでいますが、美術品と言うよりは生活に密着した仕器にあたります。「サザンカ」は一貫張りを楽しむサークルです。糊づくりから始まり手間のかかる作業ですが、皆さん楽しんでいました。残念ながら現在は新会員募集していないようですが、伝統工芸にふれる機会があるのは素敵ですね。



←作品の数々



和紙は切り口の繊維が出るように鋏を使わず手で切ると、貼ったときに紙の継ぎ目が目立たなくなります

仕上がりを美しくするために、紙は内側→外側の順で貼っていきます

## 講座のお知らせ

市民活動コーディネーター育成講座(ワークショップ)  
「龍ヶ崎みらい会議～住み続けたいまちについて話そう～」

- ・7月25日(火)13時30分～16時
- ・市民活動センター2階 大会議室 定員12名
- ・講師:植竹 智央氏(社会教育士、青少年育成協会理事、1993年生まれ)
- ・申込:センター窓口、電話0297-63-0030へ7月7日から受付開始



## 6月4日(日)「初心者のためのボランティア講座」報告

今回、ボランティア初心者7名を含む10名の出席がありました。最初の自己紹介で「65歳定年で社会に恩返ししたい」「ボランティアをやってみたいが、何をしたいかわからない」などボランティア活動に意欲的な方々が多く出席されました。今回、JR龍ヶ崎駅エスカレーター脇に通勤者の心に届くデザインで貼ったポスターが目にとまって講座に出席されている方もいました。

辻本講師は「1/2原則」を掲げ、毎週やろうと思っている方は隔週でやってみてください。自分の負担にならない程度にすることが大事と話していました。一歩踏み出すのにハードルが高いので、市民活動センターでボランティア活動のはじめの一步をマッチングするイベントを企画してもらえるといいですね！活動は1箇所だけでなくいいです。複数の活動をするのはOKです。

質疑応答もたっぷり行い、最後に活動センタースタッフに個別に相談する時間を設けたところ、二名の参加者から参加したい市内のボランティア活動団体を紹介してほしいとの要請があり、対応しました。講座を欠席した二名の方には、当日の配布資料をお渡しし、今後のボランティア活動の役に立てるようにサポートしました。参加者の感想として「辻本先生の話は分かりやすく、興味深い内容で良かったです。」「ボランティア活動の姿がおぼろ気に見えてよかったです。HPから情報を拝見することが知れてよかったです。」「よく考えて自分に合ったボランティア活動に参加します。」こうしたボランティアを志す方々向けの講座は今後も開催し丁寧にサポートしていきたいと思えます。



### 龍ヶ崎ヒストリー第15回「龍ヶ崎市民遺産 関東鉄道竜ヶ崎線」

古くは乗客だけでなく、肥料や米、繭などの物資を運搬し、龍ヶ崎の発展に大きな役割を果たし、今も竜鉄の愛称で親しまれている関東鉄道竜ヶ崎線。その構想段階では北相馬郡高須村出身の国会議員であり、地元で酒造業を営む倉島松雄個人経営の、龍ヶ崎町と北相馬郡相馬町(藤代駅)を結ぶ馬車鉄道でした。

これに対して龍ヶ崎町の豪商や実力者が皆で出資して株式会社にするのを提案し、倉島はこれを受け入れ、明治31年(1898)倉島を社長とする龍崎馬車鉄道株式会社が発足しました。

その後、費用削減と営業効率を考慮し、馴柴村佐貫に新駅を作り、龍ヶ崎駅から直線で結ぶ路線に、そして蒸気軽便鉄道に変更となりました。こうして、明治33年(1900)龍ヶ崎駅～佐貫駅を結ぶ4.5Kmの茨城県最古の私鉄、龍ヶ崎鉄道が開業しました。この時同時に開業したのが、龍ヶ崎、門倉、南中島、佐貫の4駅でした。そして半年遅れの明治34年(1901)に内地駅が開業しました。

開業当時は河岸で賑わっていた稲敷郡柴崎村の伊佐津まで延伸計画がありましたが、日露戦争の影響で資金難となり実現しませんでした。

その後は、大正4年(1915)軽便鉄道から狭軌(1067mm)に改軌し、国鉄から貨物車両の直通運転開始。昭和19年(1944)鹿島参宮鉄道に吸収合併。昭和32年(1957)南中島駅と門倉駅が廃止。昭和40年(1965)鹿島参宮鉄道と常総筑波鉄道が合併して関東鉄道が発足。昭和43年(1968)蒸気機関車が終焉し、総ての車両がディーゼル車に移行。昭和46年(1971)貨物取扱廃止、日本初のワンマン運転が開始。昭和49年(1974)現在の竜ヶ崎駅舎となりました。このような歴史を踏まえ、関東鉄道竜ヶ崎線は令和3年(2021)龍ヶ崎市民遺産認定となりました。



#### 龍ヶ崎短歌会

だれひとり花を見上げず行き交り銀座二丁目マロニエ通り  
ほの匂う夜のしめりに色冴えて庭の花ばな咲き競いおり

皆川 孝子  
日野林佐智子